

選定と堅牢度

オーティーエスが誇るスペシャリスト集団【堀江センター QC 部門】

QC 部門は、その機能から【修理】【選定】【カスタマー】に分かれています。

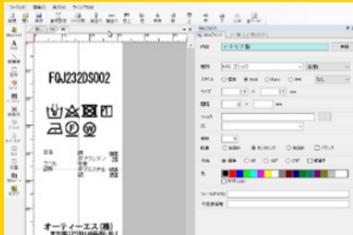
今回は【選定】に着目し、選定作業から洗濯タグが付けられるまでを解説いたします。

家庭用品品質表示法により日本国内で販売するアパレル、シューズ、革小物、帽子、サングラス、傘等々、人体に直接触れるファッション製品に対して品質表示を明示することが義務付けられています。

OTS では主に海外から入荷した商品に対して、品質表示を選定～発行～縫い付けまでを行っています。過去には日本独自の JIS 規格により決められた絵表示を使用していましたが、2016 年に世界規格 (ISO3758) の表示マークへ変更となり、国内外での表記が統一されることとなりました。



選定



選定の前段階として、洗濯ネームのレイアウトを決定する必要があります。表示が義務づけられている情報は【洗濯絵表示】【組成】【表示者の名称と連絡先】になります。このうち【洗濯絵表示】は直接商品に記載するか、容易に取れない方法で繊維製品にしっかりと取り付ける（≠縫い付ける）決まっています。そのためそれ以外の情報は下げ札での表示でも問題ありません。とはいえ便宜上全ての情報を載せた洗濯ネーム作成を望まれることも多く、お客様のご要望をもとに OTS のシステム部がレイアウトを作成しています。

選定が必要な商品は各センターを担当している QC 部門のメンバーの下に届けられ、選定作業に入ります。製造時に付けられている洗濯表示や組成情報を基に、日本国内に合わせた絵表示の並びに変更したり、お客様のレギュレーションに従った形に合わせたりといった作業がなされます。組成の表示も日本では使える表現が法律で決まっているため、ルールに沿った形に直すといった作業も発生します。また洗濯絵表示だけでは分かりにくい時もあるため、日本語によるアテンションを加えるといったことも行っています。現在 OTS 全体では 30 ブランド程のお客様に選定サービスをご利用いただいています。



豆知識

◆生活習慣の違い！！（°Д°）

欧米では洗濯物を外干して自然乾燥させるのは一般的でないため、ISO 規格の洗濯表示には自然乾燥を示す記号がありませんでした。日本ではその表示が必要になることが多いことから、日本政府の長年の要望により現在では自然乾燥の表示マークが追加されています。



◆国民性の違い！！（°Д°）

絵表示や注意事項について、海外では「書いていない=できる」と理解し、日本人は「書いていない=できない」と捉える傾向にあるそうです。そのため注意事項への理解や印象も違ったものになるため、誤解を生まないよう絵表示の微修正やアテンションの追加が必要になってくるとのこと。

◆ブランドイメージを守る！！（°Д°）

最近では海外製造でありながら、現地での製造時に最初から日本語の洗濯表示タグを付けてある商品も多くなってきました。そのままでも問題ない場合も多いですが、違和感のある日本語表現だったり、常用漢字でない文字を使用していたり、怪しげなタグになってしまっていることも時折あるとか。商品に対する大事な情報が違和感のある日本語で書いてあると、なんとなくブランドに対する信頼感が揺らいでしまいますよね。OTS の QC 部門では、そのような場合でも正確な日本語に修正した新しい洗濯タグを作成～縫い付けをしています。

印刷



QC 部門で選定作業が終わると、選定結果「組成確認書」としてそれぞれ物流の担当者へ送られ、そこで洗濯タグとして印刷されることになります。

お客様によっては選定のみ OTS で行い、そのデータを自社や他の業者さんで印刷するといったフローになっていることもあります。

縫製

印刷された洗濯ネームはそのまま倉庫内のミシンエリアで縫いつけられていきます。今回取材した臨海センターにはミシン作業歴 20 年を超えるプロ中のプロも在籍しており、慣れた手つきで次から次へと洗濯タグが取り付けられていきました。平均すると一人一時間あたり 60 枚の洗濯タグを縫いつけることができますとのこと。

熟練しているとはいえ簡単な作業ではなく、縫いつける場所をどうするかで時に頭を悩ませるそうです。

ご存じの方も多いかと思いますが、洗濯タグは基本的には左側側面に縫われており、元から付いている海外のタグの上から縫いつけることができれば最も簡単な作業となりますが、物によってはポケットの奥深くについていたり、表面に縫い付けられていたり、最近では商品に直接プリントされているといった物もあるため、商品を傷つけずかつ美しく縫いつけるのは長年の経験と熟練の技術があってこそなのだと感動しました。



摩擦



摩擦堅牢度検査も QC 部門が担う重要な業務の一つです。商品の色が摩擦によりどの程度色移りするのかを調べる検査になりますが、OTS が提供できるのは簡易検査としての乾摩擦検査と湿摩擦検査になります。

平織白布の「カナキン 3 号」を使用して、決められた方法に沿って人の手で商品を擦ります。擦る圧力についても基準がありますが、あくまで人の手で行う簡易検査のため作業員により若干の差異が出る可能性はあります。



機械を用いた正確な試験（写真左）も対応可能ですが、こちらは商品から生地を切り出して機械に設置する必要があるため、多くのお客様は商品が傷まない簡易検査を望まれるとのこと。詳細なデータを必要とする際は外部の検査機関に依頼することも可能ですが、こちらやはり商品から生地を切り出しての検査となるそうです。

規定の圧力・回数で摩擦した後は、グレースケールを参照し色落ちの等級がどの程度かを QC 部門の専門スタッフが判定します。一定の等級を下回る（色移りしやすい）場合は、注意喚起のアテンションを商品に付けたり、想定以上に等級が低い場合はお客様に報告するといった取り決めを行ったりと、お客様のご要望に合った運用が可能となっています。

より細かな検査を求められるお客様の場合、一着の洋服でも場所により組成が違っていたり、色が違っている箇所全てに対し検査をするそうです。バッグ類では表面、内面、コバ部分と複数箇所検査することもあり、多い時は一点で十数か所検査する必要があると聞き大変驚きました！



今回、改めて選定作業について取材をして、ファッション製品の日本国内での販売には家庭用品品質表示法（洗濯絵表示等）や不当景品類及び不当表示防止法（原産国表示）といった守らなければいけないルールがあることを詳しく学ぶことができました。お客様の商品を問題なく日本市場に送り出すための重要な任務を肅々とこなすプロ集団の底力を QC 部門から感じることができました。